

新入社員の 入社時期に想う

新入社員が入ってくる季節ですね。桜の季節とともに何かフレッシュな気分になる時期です。50年以上前の自分のそのころを思い起してみると、懐かしさが甦ってきます。

松下電工に入社、寮に入って3ヶ月の実習、研修期間がありました。人事部主導で技術系も事務系も営業系も、本社、製造現場、倉庫配送現場、営業現場と順にまわり、会社の歴史や社主の想い、考え方等の教えを受けました。毎朝掃除をし、朝礼で体操を行い、理念を唱和し、朝礼で順番に所感を発表し、1日の出来事等を日誌に書いて報告していました。

どこの職場に配属されるかわからない中で、行った先々の職場の先輩の話真剣に聞き動きを見ていたように思います。応接室や車の中での座席の位置、お客様や上司との面談の際、姿勢を正して直立不動で相對することもその時に教わりました。技術系は、製造現場はもちろん、倉庫で在庫管理や配送の流れや苦勞を、又営業現場で商品売る苦勞を、事務系は製造現場で物造りを研究する、製造する苦勞を、商品の流れを知ることが学びました。

会社は配属されたときに、先々の仕事の中でお互いの現場の苦勞や流れを知ること、相手への思いやりや、より良い配慮、コミュニケーションがとれるようにしたものだと思います。

この3ヶ月の実習、研修期間で教えを受けたことはたくさんありますが、こうしたことが会社人生スタートの中で、スムーズに入り込み溶け込んでいけたのではないかと考えています。

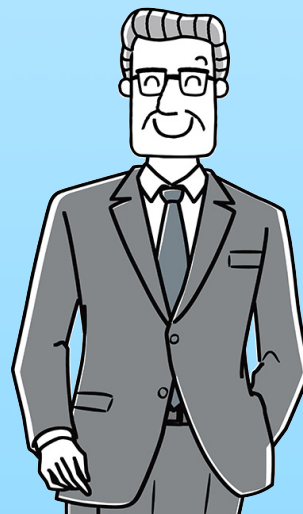
現在、それぞれの御会社の中でこれだけ長期の実習、研修期間をとることはなかなかないと思いますが、新入社員受け入れの中でとても大事なことだと思っています。

まとめてみますと長期の実習、研修には次の要素が含まれています。

1. 職場の掃除(5Sの基本)
2. 朝礼の参加、立ち姿、服装チェック
(時間厳守、規律のチェック)
3. 体操(顔色、体調、元気度のチェック)
4. 所感発表(考えをまとめる、自分を知ってもらう)
5. 報告書(5W1H、報連相の訓練)
6. 創業者の想い、会社の歴史(会社への愛着)
7. 会社の考え方や行動指針を知る理念の唱和(正しい行動)
8. 各職場の仕事内容を知る(チームワークの基)
9. 職場先輩とのコミュニケーション(敬意と悩みの相談)
10. 立ち居振る舞いや座席位置等のビジネスマナー
(社会人としてのマナー)

志を持って入ってきた新入社員です。
社会人としての第1歩、大事な4月です。

新入社員が感じる変なギャップを持たないように、又ギャップがあることは当たり前かもしれませんが、それらを乗り越えられるように、例え短い時間3日でも1週間でも組織に順応するよう、先に紹介したような実習・研修の仕組みをつくり実行していくことが、すぐに離職したくなるような気持ちにさせないことに繋がっていき、良き風習・雰囲気のある居心地の良い会社になっていくのではないのでしょうか。



長嶺 堅二郎